令和元年度
市民自治を考える市民ワークショップ

報　告　書

令和２年３月

札幌市市民文化局市民自治推進室

目　次

第１章　開催概要 1
１　開催目的 1
２　事業概要 1
（1）ワークショップテーマ 1
（2）参加者選出 1
（3）開催日時等 2

第２章　ワークショップの実施方法 3
１　当日のスケジュール 3
２　ワークショップにあたって. 4
３　ワークショップの概要. 5
（1）グループの編成 5
（2）ワークショップの流れ 5

第３章　市民自治を考える市民ワークショップの実施 7
１　情報提供 7
（1）情報提供①「市民参加とは何か」 7
（2）情報提供②「これからの市民参加を考える」 10
２　ワークショップ 13
（1）ワークショップ①　『なぜ、市民参加が必要なのか』 13
（2）ワークショップ②　『これからの市民参加を考える』 18

第４章　参加者アンケート 22
１　アンケート実施概要 22
２　アンケートの質問項目と結果 22
３　参加者アンケート結果のまとめ 32
（1）参加者について 32
（2）参加者アンケート結果 32

第５章　ワークショップの考察……33
１　市民参加の必要性について……33
（1）市政レベルの市民参加の必要性……33
（2）まちづくり・地域コミュニティでの市民参加の必要性……33
２　将来の市民参加のあり方……34
（1）市政レベルの市民参加の方法や仕組み……34
（2）まちづくり・地域コミュニティレベルの市民参加の方法や仕組み……35

第６章　資料編……36
１　情報提供資料……36
２　アンケート票……43
３　グループごとの意見……45
（1）テーマ１『なぜ、市民参加が必要なのか』における各グループの意見……45
（2）テーマ２『これからの市民参加を考える』における各グループの意見……50

第１章　開催概要

１　開催目的

札幌市が、安全に安心して暮らし、また快適に過ごすことができるまちをつくっていくために、市民参加は重要なテーマである。市民参加を進めていくためには、より多くの市民に市民参加の必要性を周知し、市民参加への理解を高めていってもらうことや、市民参加がしやすい環境を整備していくことが必要と考えられる。

そこで今回、市民参加の必要性について確認し、実際に市民参加するにはどのようなアイディアがあるかを話し合ってもらい、今後の市民参加促進のための制度、施策を検討するときの参考にするためワークショップを開催した。

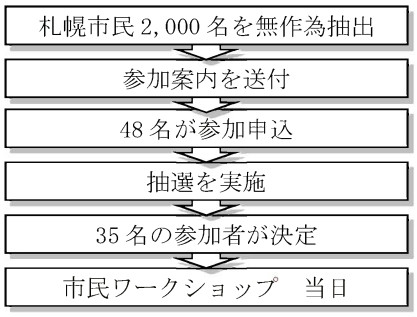
２　事業概要

（1）ワークショップテーマ

「市民参加の将来像を考える」

（2）参加者選出

日ごろ市政への参加機会が少ない方にも広く参加いただくことを目的として、住民基本台帳から無作為に抽出した 2,000 名の市民に参加案内を行い、申込者 48 名から抽選で 35 名を選出した。その後、体調不良等による欠席があり、当日参加者は 26 名であった。



○例年、参加者決定後に複数の方が辞退されていることから、定員 30 名に対して、今年は参加者を 35 名とした。

■参加者数内訳

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	計
男性	0	1	3	5	2	5	0	16
女性	0	1	1	0	2	3	3	10

（3）開催日時等

仕事等で平日は忙しい方が多いことを想定し、できるだけ各世代の方が参加しやすいように、土曜日の開催とした。

なお、ワークショップに主体性と責任感を持って参加してもらうため、参加者には謝礼を支払った。

日　時	令和 2 年 2 月 22 日（土）13：00～16：00
場　所	札幌市教育文化会館　4 階　研究室 403
参加者数	26 人

第２章　ワークショップの実施方法

１　当日のスケジュール

ワークショップは、次の流れで進行した。

13：00　　開会（10 分）

・開会のあいさつ

・ワークショップの主旨と一日の流れの説明

13：10　　情報提供①（10 分）

『市民参加の将来像を考える』

・札幌市の市民参加の現状

・札幌市の市民参加の必要性

13：20　　ワークショップの説明（10 分）

13：30　　ワークショップ①（40 分）

『なぜ、市民参加が必要なのか』

・市民参加の経験(5 分)

・市政レベルの市民参加の必要性(15 分)

・まちづくり・地域コミュニティでの市民参加の必要性(20 分)

14：10　　－休憩（10 分）－

14：20　　情報提供②（10 分）

14：30　　ワークショップ②（65 分）

『これからの市民参加を考える』

①これからどのような市民参加が考えられるか(40 分)

・自分が考えるまちづくりの課題と参加

・高齢化する地域社会・格差社会・孤立する社会・共生社会・ダイバーシティ・環境などから考えてみる。

②これからの市民参加のアイディア(25 分)

・これからの市民参加を進めるための具体的アイディア

15：35　　発表（15 分）

・各ファシリテーターからワークショップ①・②の発表

15：50　　まとめ（7 分）

・総合ファシリテーターから全体の内容について振り返りとまとめ

15：57　　閉会（3 分）

・閉会のあいさつ、参加者アンケートの記入

2　ワークショップにあたって

参加者が積極的に参加できるよう、「当日の案内」を事前に郵送し、参加に当たっての基本的なルールと情報提供などについて周知を図った。

■当日の案内

令和元年度　市民自治を考える市民ワークショップ

参加についてのご案内

ご参加にあたってのご案内事項、注意事項などを記載しています。事前に必ずお読みください。
ご不明な点などがありましたら、お気軽にお問い合わせください。（お問い合わせ先は最後に掲載しています。）

【ワークショップの概要】
地域課題が複雑・多様化する昨今において、より暮らしやすいまちづくりを進めるためには、幅広い市民の皆さまにまちづくりに参画していただくことが大切です。札幌市が、まちづくりを進めるための基本的なルールとして定めた「自治基本条例」では、まちづくり活動に市民の方が参加する「市民参加」を重要なものとして位置づけ、市民が主役のまちづくりを目指しています。
ご参加の皆様には、札幌市が抱えるまちづくりの課題を共有しながら、今後、世代を超えてより多くの市民の皆さまに、気軽にまちづくり活動に参加していただくためにはどうすれば良いかを、ワークショップ形式（少人数のグループで自由に意見を出し合っていただく方式）で話し合っていただきます。
皆さまからいただいたご意見は、今後の市の取組や施策の検討にあたっての参考とさせていただきます。

日　時

令和２年２月２２日（土）13：00～16：00（12：30 受付開始）

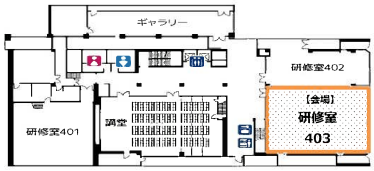
・受付には 12：55 までにお越しください。「参加者確認票　兼　口座振替申出書」をご提出ください。
・ワークショップ会場（研修室 403）の開場は 12：40 頃を予定しています。

会　場

札幌市教育文化会館４階 研修室 403（札幌市中央区北１条西 13 丁目）

・アクセス：地下鉄東西線「西 11 丁目」駅 1 番出口　徒歩５分
　　JR バス、中央バス「北１条西 12 丁目」停留所　徒歩１分
・参加者用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用いただくか、近隣の駐車場をご利用ください。
・交通費、駐車料金は参加者負担となりますのでご了承をお願いいたします。

＜会場付近の案内図＞



当日ご持参・ご提出いただくもの（事前の記載・捺印必要）

「参加者確認票　兼　口座振替申出書」・・・この郵便に同封しています。

・参加報酬の振込先口座について、「口座振替申出書」欄の必要事項のご記載とご捺印をお願いいたします。
・ご記載にあたっては、「口座振替申出書」欄の注意事項（※1～5）をよくご覧ください。

参加報酬について

全時間帯参加された方に、ワークショップ終了後に、参加報酬を口座振込でお支払いいたします。

・参加報酬は 3,000 円で、源泉徴収はございません。ワークショップ終了後、1 か月程度での入金となります。
・事前・当日のお支払いや、口座振込以外の方法でのお支払いはいたしかねます。
・「参加者確認票　兼　口座振替申出書」を当日お忘れになった場合や、記載に誤りや漏れなどの不備がある場合は、振込が大幅に遅れることがあります。記載内容を今一度よくご確認のうえ、当日忘れずにご持参ください。

参加できなくなった場合

万一、参加できなくなった場合は、必ずご連絡をお願いいたします。（連絡先は最後に掲載）

・今回のワークショップは、抽選により落選されている方がいらっしゃることをご考慮のうえ、特段のご事情がない限り、ご出席くださいますようお願いいたします。
・やむを得ず参加できなくなった場合は、できるだけ早めにご連絡くださいますようお願いいたします。

当日、交通事情などにより遅れる場合

当日遅れる場合も、可能な限りご連絡をお願いいたします。（連絡先は最後に掲載）

・天候によっては移動に時間がかかることも考えられます。余裕をもってお出かけください。
・会場へのご到着が遅れる場合は、可能な限りご連絡をお願いいたします。ご連絡がなく、開始時刻から相当時間を経過した場合は、ご欠席と判断することがございます。

その他

・館内は全館禁煙ですので、館内での喫煙はご遠慮ください。なお、喫煙場所は、建物の外（1 階東口側）にございます。
・ワークショップ中は、携帯電話の電源をお切りいただくか、マナーモードに設定してください。
・本市のホームページに掲載するため、写真を撮影いたします。また、ワークショップは公開となりますので、報道機関や見学者が入る可能性があります。本市や報道機関が撮影する写真や映像などに映り込む可能性がありますので、ご了承ください。

ご連絡先・お問い合わせ先

平　日 のご連絡・お問い合わせ先

０１１－２１１－２２５３（札幌市役所 市民自治推進課）

ご連絡可能な時間帯　8：45～12：15 または 13：00～17：15

※ 時間外には応答できない可能性があります。また、市役所閉庁日（土曜・日曜・祝日）は応答できませんので、あらかじめご了承をお願いいたします。

ワークショップ当日（２月２２日） のご連絡・お問い合わせ先

０１１－５２２－５０７０（当日の緊急連絡専用電話）

ご連絡可能な時間帯　令和２年２月 22 日（土）12：00～13：30

※ 上記時間帯以外は応答できませんので、あらかじめご了承をお願いいたします。

３　ワークショップの概要

ワークショップは「市民参加の将来像を考える」をメインテーマに設定して、2 部構成で行った。

（1）グループの編成

意見交換は 5 グループ（1 グループ 5～6 名程度）を作り、ワークショップ①とワークショップ②を行った。ワークショップ①の議論を受けて、ワークショップ②ではより深い内容を話し合うことができるよう、グループの再編成は行わなかった。

また、意見交換を円滑に進めるため、各テーブルにファシリテーターを 1 名ずつ計 5 名配置し、参加者の意見を引き出すこととまとめ役を担った。

（2）ワークショップの流れ

1）進め方の説明

総合ファシリテーターから、ワークショップの進め方について簡単に説明した。

2）ワークショップ①『なぜ、市民参加が必要なのか』【40 分】

情報提供を受けて、市民参加の必要性について考えてもらった。

市民参加が具体的に何を指すかについて参加者のイメージを膨らませるため、市政レベルの市民参加と、まちづくり・地域コミュニティでの市民参加にそれぞれ区別して考えた。

また、市民参加の経験や、参加を考えるうえで障壁になっている課題などについても触れながら、多角的に検討した。

①市民参加の経験【5 分】

これまで市民参加の経験があるか、参加を考えたことがあるかについて各自意見を出してもらった。

②市政レベルの市民参加の必要性【15 分】

市民参加の必要性について、各自意見を出してもらった。また、市民参加を考えるうえで障壁になっている課題などについても、各自意見を出してもらった。

③まちづくり・地域コミュニティでの市民参加の必要性【20 分】

まちづくり・地域コミュニティレベルの参加の必要性について、各自意見を出してもらった。また、市民参加を考えるうえで障壁になっている課題などについても、各自意見を出してもらった。

3）ワークショップ①のまとめ

テーブルファシリテーターがワークショップ①でどのような議論がされたか、議論のテーマや内容ごとに模造紙にまとめた。

4）ワークショップ②『これからの市民参加を考える』【65 分】

ワークショップ①で “なぜ、市民参加が必要なのか”について出してもらった意見を踏まえて、どのように市民参加をしていけばよいかについて、具体的な市民参加のアイディアや方法について考えてもらった。

意見交換の内容は次のとおりである。

①どのような市民参加が考えられるか【40 分】

ワークショップ①で出された市民参加の必要性や課題を基に、今後どのような市民参加が考えられるかについて、身近な社会問題などとも併せて検討し、具体的なアイディアを出してもらった。

②これからの市民参加のアイディア【25 分】

個人としてこれから市民参加をするために、どのような方法でどのような参加方法があるのか、各自アイディアを出してもらった。現実的に取り組みやすいものはもちろん、取組に時間がかかるものも含めて、幅広くアイディアを出し合った。

5）グループごとの発表

テーブルファシリテーターがグループ内の意見をまとめ、1 グループ約 3 分程度で発表を行った。

6）まとめ

総合ファシリテーターが、全グループの発表内容から意見、傾向等をまとめ、確認した。

第３章　市民自治を考える市民ワークショップの実施

１　情報提供

（１）情報提供①「市民参加とは何か」

株式会社 KITABA の酒本氏より、市民参加とは何かについて、市政への参加とまちづくり活動への参加という 2 つに分けて、具体例を提示しながら説明した。また、新たな市民参加についても、その内容や特徴について情報を提示した。

■市政への参加

市民参加の方法の中で、市政への参加に当たるものとして以下の項目を説明した。

①アンケート

市政に関してアンケートに答えてもらいます。

②パブリックコメント

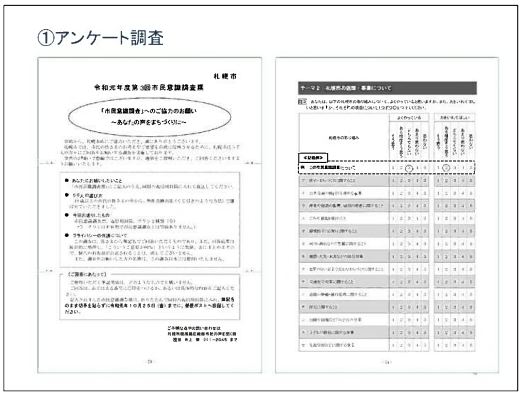
計画や条例の最終案を作る前に、事前に公表し、市民のみなさんに意見を聴くことをいいます。

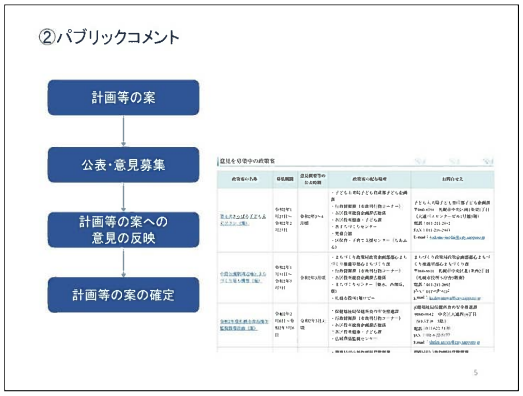
③全市的なテーマのワークショップ

ワークショップで行政や施策などに理解を深めてもらいながら、意見などを出してもらいます。

④審議会・委員会への参加（公募委員）

審議会は、市からの意見を求められた事項を調査・審査し、それに対する意見を述べる機関です。





■まちづくり活動への参加

市民参加の方法の中で、まちづくり活動への参加に当たるものとして以下の項目を説明した。

①町内会活動

・ごみステーションの管理・清掃活動
・町内会の除排雪
・災害時の助け合い
・高齢者の見守り

②身近なまちづくりへの参加

・地域レベルのワークショップ
（町内会について考えるワークショップなど）

③NPO などの活動

・子ども食堂
・ゲストハウスにおける学童保育
・富士見市の子育てサロン「ミッキークラブ」

④PTA 活動

・交通安全運動
・読み聞かせ活動
・PTA バザー

⑤ボランティア活動

・清掃ボランティア greenbird
・森林ボランティア
・観光ボランティアガイド

（２）情報提供②「これからの市民参加を考える」

株式会社 KITABA の酒本氏より、地域コミュニティの現状について具体例を提示しながら説明した。そして、抱えている課題の解決に向けた取組を考えるにあたり、全国の地域での取組例を紹介した。

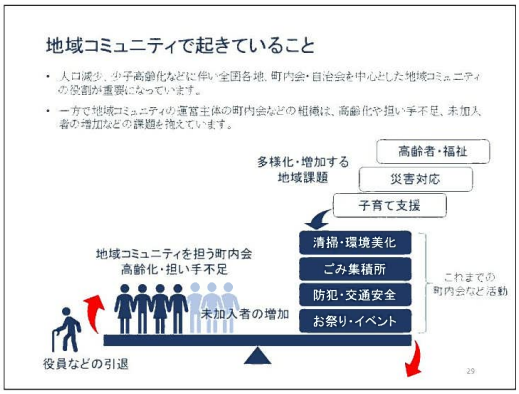
■まち・地域コミュニティで起きていること

〇地域を取り巻く現状・課題

・高齢化に伴う課題の顕著化
・地域での子育て支援
・孤独な日本社会の見えない地域課題
・空き家・空き施設の増加
・環境への取組
・共生社会への取組

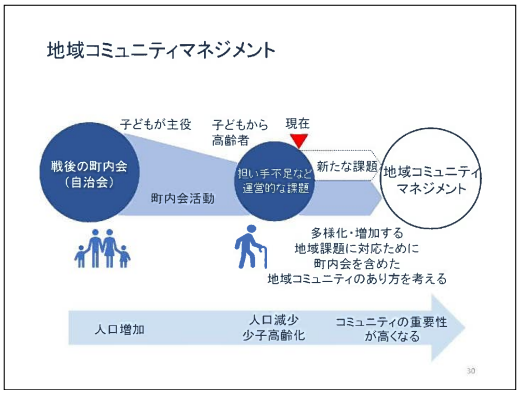
〇地域コミュニティの現状・課題

・人口減少、少子高齢化などに伴い全国各地、町内会・自治会を中心とした地域コミュニティの役割が重要になっています。
・一方で地域コミュニティの運営主体の町内会などの組織は、高齢化や担い手不足、未加入者の増加などの問題を抱えています。



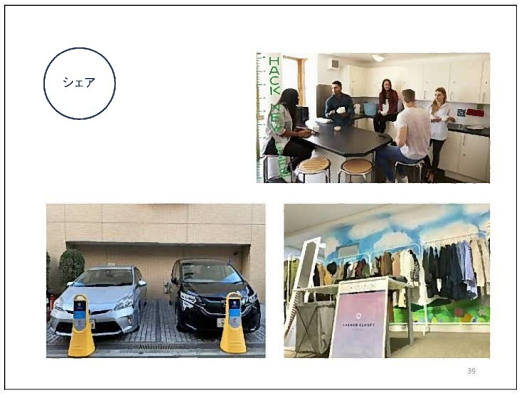
■地域コミュニティマネジメント

・多様化・増加する地域課題に対応するために、町内会を含めた地域コミュニティのあり方を考える。



【シェア】

・使わなくなったものや場所を貸し借りするシェアリングエコノミーは、今では車や服、キッチンスペースなど幅が広がっている。



【にぎわい】

・まちなかにあるオープンテラスの活用や、地域の夏祭りなどイベントに参加する。

【コミュニティの場】

・団地の中に、若い世代も寄りたくなる交流スペースを設けて、団地の再生をスタートさせる。

【空き家の活用】

・ゲストハウスで学童保育を行う。

・町内会と連携してまち歩きツアーなどを検討している。

・空き家を資源として活用するため、5 年間の期限付きで、空き家所有者に物件を提供してもらい、利用者を募集してストックを循環させている。

・空き地を市民で共有し、庭としての機能だけではなく、教育や研究のための重要なネットワークにもなっている。

【空き家の活用×コミュニティ】

○NPO による高齢者支援の実施（神奈川県横浜市）

・NPO 法人ふらっとステーション・ドリームでは、空き家や空き店舗を活用し、主に高齢者に向けて食事を共にする空間を創出している。

○地域住民によるコミュニティカフェ「こっぽら土澤」を実施（岩手県花巻市）

・地域の女性グループによる高齢者支援の一環として、コミュニティカフェを運営している。月ごとにメニューを貼り出し、カフェの利用を促している。

○ふくい会館（北海道札幌市）

・閉鎖となった幼稚園の払い下げを受けて、会館をリノベーションすることによって、多様な活動の場として広く利用されており、収益を生んでいる。

２　ワークショップ

（1）ワークショップ①　『なぜ、市民参加が必要なのか』

主な議論のテーマ
○市民参加の理解について
○市政レベルの市民参加について
○まちづくり・地域コミュニティでの市民参加について

1）ワークショップ①の進め方

あらかじめ振り分けた 5～6 人ずつのグループに分かれて意見交換を行った。
株式会社 KITABA の酒本氏による『市民参加とは何か』の情報提供を受け、市民参加はなぜ必要なのかについて、それぞれ考えてもらった。

■ワークショップの様子

２）主な意見

なぜ、市民参加が必要かについて考えるにあたり、まずは「市民参加」についてのイメージや経験を考えてもらった。参加者が考えたイメージとしては、「町内会活動」や「PTA 活動」が多くあげられた。また、市民参加の経験としては、「町内会活動」がほとんどを占めた。

次に、「市民参加」を市政レベルのものと、まちづくり・地域コミュニティレベルのものに分けて、それぞれの必要性や課題について意見を出し合った。市政レベルでは、必要性は感じているものの、情報や機会の不足に課題があげられ、まちづくり・地域コミュニティレベルでは身近な関わり方である反面、参加意欲の醸成が難しいという意見が出た。

①市民参加の必要性について

●市民参加の経験

町内会への参加

・町内会の班長や役員、当番の経験がある。

・町内会活動（会議、ごみ、清掃）に参加している。

・町内会は地域が暮らしやすいように、地域の為に活動し、そこに行政からのお願いが来ている。

その他

・市長とのタウンミーティングの経験がある。

・消防訓練に出たことがある。

●市民参加のイメージ

PTA 活動と似ている

・PTA の活動のようなイメージを持っている。

気乗りがしない

・ボランティア活動だと感じる。

・「市民活動やろう」となると敷居が高い。

地域活動の一環

・地域の見守り活動をイメージする。

・町内会の活動のイメージがある。

楽しそう

・夏祭りのイメージがある

・子どものつながりで地域でのつながりができる（こども会）。

・周りの人で厚真に行った時の写真を SNS にアップするなどしていた。

②市政レベルの市民参加について

●必要性

暮らしを支えるために必要

・暮らしを支える役割として必要である。

・ゴミの管理、除雪、排雪について直接意見を言うことは、暮らしを支えることに必要である。

・PTA 活動に参加している時に感じる。
・ボランティアなどやっているため、その時に感じる。

安心感を得るために必要

・何かあった時に助けられるために必要である。
・安心感のあるまちになるために必要である。
・災害時のことも考えると、地域コミュニティがしっかりしていると良い。

ニーズを把握し、暮らしをより良くするために必要

・ごみや環境美化、除排雪、災害時の助けあい、身近な交流など、暮らしやすい居住環境や地域コミュニティを維持していくためには、地域住民のニーズや改善策などを話し合う機会が必要である。
・選挙は義務だから可能な限り行く必要がある。
・地域単位で市民レベルのニーズや意見を可視化することが必要。
・ここに住みたいというまちにしていく為の住民の意見を聞けると良い。
・市民に関心、興味を持つことが必要である。

地域の問題を解決するために必要

・地域の課題を解決、住みたいまちにしていくために必要である。
・地域の課題や、テーマを決めて市民参加型の意見交換会などが必要。
・単身高齢者の集まりが必要。

その他

・市民としてのメリット利点が得られるのであれば良い。
・今町内会でやっていることは、本来行政がやることではないか。それを市民にお願いしている。

●課題

知る機会・参加の機会がない

・市政への参加のきっかけがない。
・知る機会がない。

関心がない

・どういう分野の活動が足りていないかわからない。
・市政が身近じゃない。
・情報発信ツール、広報もネットもわざわざ見ない。
・市全体で考えている市民は少ない。

情報がない

・避難所の運営方法など対応の仕方は行政から情報がない。
・マスコミの報道がないと情報が入ってこない。
・情報がありすぎるのではないか。
・手を貸してほしい人と協力したい人がマッチングしていない。

意見が公平に反映されていないと感じる

・言いっぱなしになっていることもあると感じる。

・意見が反映されるのかという疑問がある。
・声が大きい人が目立つ、意見が通ってしまう。
・施設を造るなどの際に、一部の人の意見だけだとあまり良くない。
・選挙の重要性を若い人たちへ伝えたらよい。

改善案の提案

・区単位での情報発信や参加のきっかけがあると良い。
・町内会同士の横のつながり、情報交換があると良い。
・市民参加をするためのきっかけづくりが必要。
・テレビの CM などがあると良い。

③まちづくり、地域コミュニティレベルの「市民参加」について

●必要性

意見を直接伝えることができる

・透明性を高めることが必要(目的や事業者など）。
・まちづくりの方針などを直接聞くことができることが必要。
・直接的にいろいろと話ができると満足度がある。

当事者意識を持つことができる

・自分から少しでも進んで集まりに参加することも大事。
・町内会の組織が以前はしっかりしていたが、現在は意見の吸い上げが難しくなっている。
・暮らしているなら自分の地域のことを考えるべき。

共通項でのネットワークづくりができる

・好きなこと、関心あることから市民参加につながっていくと良い。
・きっかけの為の登録制のネットワークづくり。
・子どものつながりで親同士のネットワークがあると良い。
・SNS で日頃からボランティアなどのネットワークを作っておく。
・ガーデニング好き、興味のあるものでつながっていくことはできないか。
・若い人のイベントが多いといい。
・老人クラブの方の活動があるといい。

多世代交流の場

・昔は年に 2、3 回集まって地区ごとに話し合っていた。
・団地などでの住民同士の結束が強さ。
・子どもが大きくなると、一時期地域から離れる気がする。
・高齢者も頭、体を使うことが必要。
・子どもたちの遊び場が必要。
・多世代の交流の場が必要。
・退職した後には草むしりとして参加することが考えられる。
・層を広げることで偏見の目がなくなるのではないか。

第３の居場所（場）づくり

・児童会館とか町内会館のような施設があると良い。
・みんなで集まれる場所が欲しい。多様な考えが共有できるといい。
・一人で行きやすい居酒屋みたいな自分の居場所があると良い。

参加しやすい活動の具体例

・病院など、他施設と連携したイベント企画などがあると良い。
・入院者への本の貸出しなどがあると良い。
・子どものボランティアなどがあると良い。
・報酬が出ることやインセンティブがあると良い。

その他

・PTA 活動との連携が考えられる。
・健康のために行うという視点も今後はあるかもしれない。

●課題

意見が反映されている実感や情報がない

・市政には意見を言ってもなかなか反映されてないような気がする。
・必要性は感じるけど、反映されるのか。情報が滞る印象を持つ。
・直接的に意見交換できる場がもっと必要（TV など）。

多様なライフスタイルが受け入れられていない

・原点は共働き家庭が増えてきたことだが、偏見の目が最近は増えている。
・子ども食堂に行っているという理由で貧困の目で見られる例もある。

参加しづらい

・市からの情報は敷居が高く感じる（言葉として）。
・手を上げやすい環境づくりが大事。
・ボランティアだけでなく、報酬をもらえると参加しやすいかもしれない。

（2）ワークショップ②　『これからの市民参加を考える』

主な議論のテーマ
○これからどのような市民参加が考えられるか
○これからの市民参加のアイディア

1）ワークショップ②の進め方

ワークショップ①と同様のグループで意見交換を行った。
ワークショップ①で出された意見は班ごとに集約し、模造紙にまとめたものを確認しながら、これからの市民参加についてグループごとに考えてもらった。
アイディアを考える際には、ワークショップ①の内容と情報提供の内容にあった事例紹介を参考に、今後の市民参加の具体例について意見を出してもらった。

■ワークショップの様子

２）主な意見

今後、どのような市民参加が考えられるかについて、市政レベルの市民参加の取組とまちづくり・地域コミュニティレベルの市民参加の取組それぞれの視点から、具体的な取組のアイディアが出された。

主な意見は以下のとおりである。

①市政レベルの市民参加のあり方・仕組み

●情報発信

マスメディアを駆使する

・テレビで市政の情報を受け取れるようにする。

SNS を活用する

・スマホで情報を受け取っているので、市の情報は LINE がいい。

・SNS で情報提供があるといい。登録するとインセンティブがあると良い。

WEB アンケートやダイレクトメールを活用する

・WEB アンケートをメールで送り、回収する。

・市からのダイレクトメールが有効ではないか。

様々な媒体を通して「市民意見の反映結果」を発信する

・ワークショップなどでの市民意見がどう扱われるか、結果や過程が見えると良い。

・意見が通るような体質づくりをしてくれるといい。

人が集中する空間や場所で発信する

・スーパー、地下鉄、学校、お店、カフェなどの掲示板を活用する。

・飲食店のトイレ、地下鉄の広告、バス、図書館、コンビニで情報発信する。

その他

・海外の事例を調べて取り入れる。

・まちづくりセンターで情報を発信するなら 24 時間対応できるようにする。

・口コミを信頼する。

・市役所に来た人に誘ってみる。

・何に困っていて、市民の参加が必要なのか伝える。

・区ごとの力を入れていきたい方針や取組を示し、区民の声を集めるようにする。

・区のキャラクターに発信してもらう。

●参加する機会・仕組み・場

・海外の視察を議員ではなく一般市民から募集してツアーを行う。

・市外の人を集めて、意見を聞く。

・アイディアに関して、企業のノウハウを教えてもらう。

●参加の利点

・企業に協力してもらう（チラシを置く、協賛など）。

②まちづくり・地域コミュニティレベルの市民参加のあり方・仕組み

●情報発信

マスメディアを駆使する

・コミュニティレベルで取得しやすい J-COM など有線の番組でも良い。

WEB サービスを活用する

・インターネットが普及しているのでそれを利用する。

その他

・自分の周り（生活圏）に情報がない。活動を知らない。

●参加する機会・仕組み・場

顔を合わせてのコミュニケーションや参加の機会づくり

・直接会話や意見を言える機会は必要である。

・地域にどんな方が住んでいるかわかると、参加しやすい。参加も声かけやすい。

・地域レベルの意見交換の場をもっとたくさんつくっていく。

・いろいろな主体の人が集まる機会をつくる。

・福祉、交通情報や町内会以外の人も参加することが良い。

インターネット通信を活用したリモートによる参加の機会づくり

・ワークショップもみんなで集まらなくてもリモートでできるようにする。

・リモートで決められた時間に、市長とのコミュニケーションの場を作れると良い。

・ご高齢の方もデジタルツールが簡単に活用できるようにする仕組みをつくる。

若い世代が参加しやすいテーマ・場所・時間帯の設定

・若い方、働いている人が参加できる夜カフェを開催。

・参加しやすいような時間帯を変える。

・学生にボランティア参加してもらう（学習・除雪などのテーマで)。

・若い世代が気軽に主催や企画を考えてもらう機会を用意する。

子ども達に対するふるさと教育を兼ねた体験活動の機会づくり

・大人の市民参加が進まないため、子ども達もイメージしづらい可能性がある。

・学校単位でボランティアなど参加してもらう。

・小中高で職業体験やってみる。

・子どもがまちづくりのゲームをしているため、授業などで取り上げても良い。

・企業（ゲームやエンターテイメント業界）と組んで、子ども、親の関心を引くイベントやまちづくりに関した企画を開発したり、PR できると良い。

・土日は家族で参加できると良い。

海外出身者の活躍機会づくり

・外国の方にもどんどん活躍してもらう機会を設けて、参加を促す。

多様な主体によるコミュニティマネジメント（エリアマネジメント）

・町内会だけでなく、地域レベルの色々な主体の意見を吸い上げる機会をつくる。

・医療機関同士では情報を共有している。ただし、見守りの情報などを外に開示することはない。

・町内会役員が高齢化していることや、担い手が確保できない状況であるため、町内会が以前よりも機能しなくなっている。
・地域レベルには町内会だけでなく、学校、医療機関、商店街、NPO など多様な主体がいるため、互いに連携して地域課題を解決していくことが必要である。

コミュニティマネジメントを運営していくための財源の確保

・町内会や地域内で行われるイベントに参加、協賛する。
・広告のスペース・場所を貸す。
・民間、食品の余ったものを母子家庭などに届ける支援を行う。

既存の場の活用

・子ども食堂などを集まる機会や場に活用する。
・お寺でカフェサロンを開くと良いのではないか。

●参加の利点

企業と連携した参加ポイント制度をつくる

・IT 関連企業と連携して、参加したことがサービスポイント還元される仕組みになると良いのではないか。
・ポイント付与があるとメリットが市、地域、企業にも出る。
・参加し甲斐がある、参加すると楽しいメリットが必要。
・参加した結果、何か変わると良い。
・お金やお弁当などの報酬を付ける。

地域で資源を共有（シェア）する仕組みをつくる

・町内会で小さい除雪機を買って、地域でシェアする（非課税の補助があるといい）。
・不用品の情報を回覧板で共有している（道新がサービスの仲介をしている）。